

平成25年度箕面市決算の概要

<>の数値は、前年度との比較

決算の全体像（普通会計）

◆ 普通会計決算額

国の緊急経済対策に対応した各事業の実施や北大阪急行南北線延伸に向けた基金積立てなどにより歳入、歳出総額とも前年度に比べ大幅に増加。
市税収入が当初の想定を超えて伸びたことなどにより、実質収支も大幅に増加。

歳入総額	524億87百万円	< +103億96百万円、+24.7% >
歳出総額	502億64百万円	< +103億94百万円、+26.1% >
実質収支	15億44百万円	< +7億12百万円、+85.5% >

◆ 主な歳入の状況

- ・市税収入 225億99百万円 < +74百万円、+0.3% >
市民税 ▲3億39百万円、固定資産税 +2億59百万円、市たばこ税 +65百万円
都市計画税 +64百万円
- ・国・府支出金 129億1百万円 < +43億30百万円、+50.5% >
地域の元気臨時交付金 +21億58百万円、社会資本整備総合交付金 +10億93百万円
学校施設環境改善交付金 +7億16百万円
- ・普通交付税 10億69百万円 < ▲48百万円、▲4.3% >
- ・地方債 36億46百万円 < +8億65百万円、+31.1% >
小中学校非構造部材・プール耐震化等 +8億7百万円、小中学校空調整備 +2億96百万円
中学校給食室の整備 +1億93百万円、市営住宅耐震化 +2億24百万円
稲ふれあいセンターの整備完了 ▲6億41百万円
多文化交流センターの整備完了 ▲2億72百万円

◆ 主な歳出の状況

- ・義務的経費 211億49百万円 < ▲3億59百万円、▲1.7% >
人件費(給料、退職手当など) ▲5億10百万円、公債費(一部市債の返済終了) ▲5億5百万円
扶助費(子どもの医療費助成、保育所入所費など) +6億56百万円
- ・物件費 71億71百万円 < +2億47百万円、+3.6% >
北大阪急行南北線延伸整備基本設計等 +2億28百万円
- ・普通建設事業費 74億45百万円 < 35億21百万円、+89.7% >
小中学校非構造部材・プール耐震化等 +13億66百万円、小中学校空調整備 +6億69百万円
都計道路萱野東西線道路の改良整備 +6億31百万円、通学路等安全対策 +5億45百万円
市営住宅耐震化 +4億79百万円、稲ふれあいセンターの整備完了 ▲11億66百万円

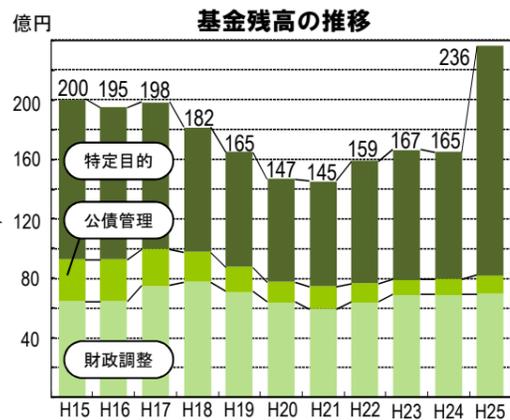
収支バランスの状況（普通会計）

◆ 基金残高 236億33百万円 < +71億42百万円、+43.3% >

取崩しを必要最小限にとどめ、将来の財政需要に備えて北大阪急行南北線延伸整備基金などへ積極的な積立てを行った。

(積立額) 78億29百万円 < +69億82百万円、+824.3% >

- ・北大阪急行南北線延伸整備基金 31億66百万円
うち、競艇事業収入の積立て(当初予算分) 4億50百万円
競艇事業収入の積立て(公営企業会計移行分) 25億円
運用収入等の積立て 2億16百万円
 - ・都市施設整備基金 21億93百万円
うち、平成26年度に活用する地域の元気臨時交付金の積立て 18億38百万円
 - ・定額運用基金6基金を再編し、積立基金に積替え 14億83百万円 など
- (取崩額) 6億88百万円 < ▲3億18百万円、▲31.6% >
- ・公債管理基金を活用した市債の繰上償還 2億60百万円
 - ・牧落住宅団地施設整備基金の積替え 2億44百万円 など

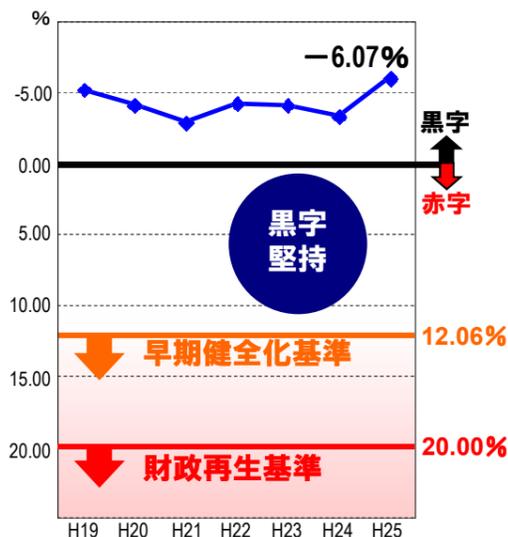


健全化判断比率等の状況

いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準は、平成25年度決算における数値。
早期健全化基準を超えた団体は、破たん一步手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード)
財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)
このほか、公営企業の経営状況を示す資金不足比率については、病院事業会計、水道事業会計、公共下水道事業会計のいずれも資金不足はない。

◆ 実質赤字比率

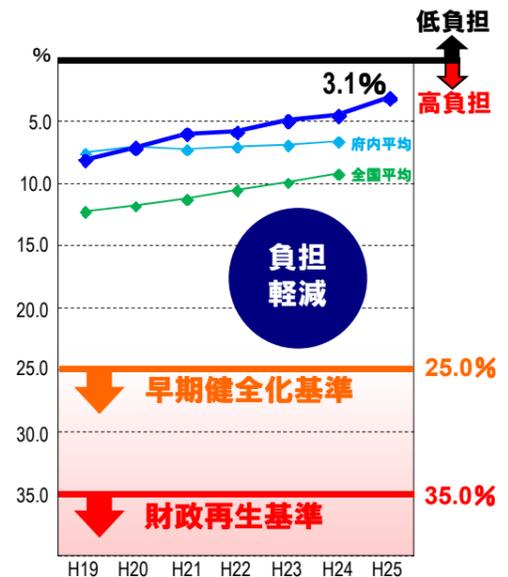
一般会計と特別会計公共用地先行取得事業費の赤字の大きさと、財政運営の深刻度を示す。



市税収入の伸びなどによる一般会計の収支改善により、2.71ポイント改善

◆ 実質公債費比率

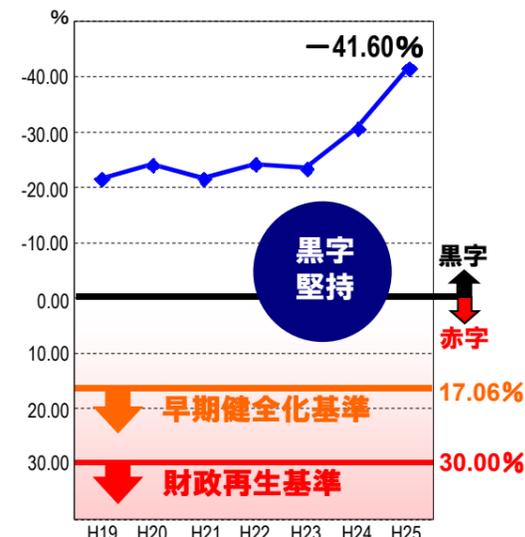
一般会計と特別会計公共用地先行取得事業費の市債の返済額などの大きさと、資金繰りの危険度を示す。



一部市債の返済終了に伴う公債費の減などにより、1.4ポイント改善

◆ 連結実質赤字比率

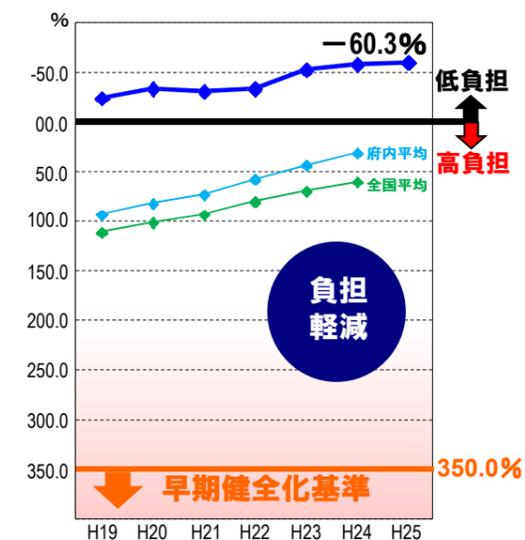
一般会計の他、すべての特別会計、公営企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の大きさと、財政運営の深刻度を示す。



一般会計の収支改善、特別会計国民健康保険事業費の赤字縮減などにより、10.79ポイント改善

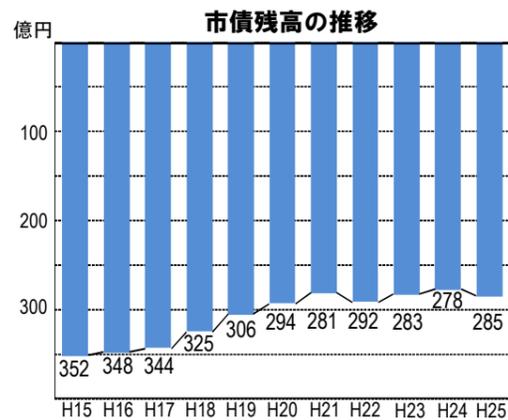
◆ 将来負担比率

一般会計と特別会計公共用地先行取得事業費の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の大きさと、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。
一部公営企業債の返済終了に伴う将来負担額の減、将来負担に充当可能な基金の増などにより、1.8ポイント改善



◆ 市債残高 285億32百万円 < +7億64百万円、+2.8% >

約28億82百万円返済し、臨時財政対策債は、限度額まで全額発行することなく13億41百万円の発行に抑えた。
一方、小中学校施設の非構造部材やプールの耐震化など国の緊急経済対策に対応した事業を実施するため、施設整備事業債を23億5百万円発行したことから、市債残高は一時的に増加した。



◆ 経常収支比率 92.9% < ▲0.9ポイント >

人件費の減や繰上償還に伴う公債費の減など、経常的支出の減に加え、景気の回復傾向などによる経常的収入の増により、昨年度から0.9ポイント改善した。
今回で、5年連続の改善、経常黒字(経常収支比率100%以下)の達成となる。また、政令市を除く府内31市中で健全性第7位と、昨年度の第10位から順位を上げた。

